

も白い花を咲かせていた。

「桜散る兵じも権現山」悠々

「聖符の遺墨拜みて躑躅の華」悠々

碑前祭の後、近くの「ほのかの湯」の温泉で体をしばし休める。碑前祭では初めてのこと、軽井沢に住む別所君のアイデアであった。料金が500円と安い。大勢で入浴したので温泉宿の年配の主人が「どのような団体ですか」と質問する。元南御牧村村長であった依田翁と我々のかわり方を説明する。

その夜、軽井沢の別所君邸で懇親会を開く。佐藤九州男君は自宅でとれたふきなどの漬物を惣菜として持参した。奥さんを亡くして自炊しているだけあって意外と美味であった。野俣君は独自に考案した健康体操を披露する。暇があれば全国を飛び回っている元氣な男だ。別所君は奥さんを亡くして「自立・予防」を

## 五十九期（土59期）

担当  
清水 和男  
梶川 廉

恒例の権現山碑前祭開かれる

牧内節男（23）歩兵

恒例の佐久市の権現山碑前祭が、泊2日の日程で開かれた。（4月21日、22日）正午、佐久平駅集合。（北海道恵庭市の野俣明君、一宮市の不破喜久夫君をはじめ首都圏から11名の同期生と神保明生さん（小高貞三郎君25）野砲）の甥、の2人が特別参加し合計13人の出席となった。駅前のおそば屋で昼食後、権現山に向かう。生憎曇り空が雨模様となった。『遙拝所跡』で碑を建立した依田英房翁と亡くなった同期生たちに黙とうを捧げる。校歌を合唱し、記念撮影をする。権現山の桜は散る間際で風情があった。こぶし

「これから、君が書く資料になるだろう」とそばに座っていた中島知行君から榊原生徒隊長の父兄宛の挨拶文など資料をいただいた。霜田昭治君は『福翁自伝』の面白さを語る。またネットで調べたこの日の佐久平の天候の資料もいただいた。小池俊夫君に「いかにして閉幕が強くなったか」その秘訣を聞く。旅好きの川井孝輔君が「東京大仏は何処にあるのか」と質問を出す。健脚な彼は相変わらずあちらこちらの名所旧跡を旅している。泊る予定をしていなかった梶川和男君も建築設計など昔話に花を咲かせていた。

「ながらえてむかし惚びつこぶし咲く」

悠々

権現山碑前祭への2世参加記

神保明生（故小高貞三郎25野砲の甥）

かねてより軽井沢の別所様より遊びに来るようお誘いがありました。ご迷惑と思ひ遠慮しておりましたが、今回の碑前祭への参加は絶好の機会であり遠慮は要らない、とのお電話を頂き思い切って参加させて頂くことに致しました。

父親の同窓会に息子が同席するようなものですが、早世した叔父から存命中に尊敬する陸軍士官学校の話を何も聞かなかった自分の未熟さをこれから補いたい気持ちの原動力でした。



中島知行

川井幸輔

霜田昭治

梶川和男

佐藤九州男

牧内節男

別所未一

西村 博

神保明生

不破喜久夫

小池俊夫

野俣 明

塩原将人

11人の、元陸軍士官候補生と合宿出来るとは貴重な身に余る幸運であります。

碑前祭前日に、別所さん、野俣さんと一緒に下見と温泉浴を兼ねて、権現山を訪れた所、頂上の枯れ木と雑草を掃除

されている依田様の御子孫と偶然にお会いすることが出来ました。依田元村長とは別の依田家の方ですが、お隣のその方の敷地にも59期生の石碑があり、当然に昔、親御様に「了解頂いてあるもの、跡継ぎ様にお目にかかれて、御礼が出来たことは、正しく天祐でした。嘗て終戦

間際に最後の内地防衛戦に殉ずる覚悟で日々鍛錬に励んでいた、終生至誠の青年士官候補生達の姿に感動されて記念碑を建てて下さった依田一族様のご厚意がこの権現山を存在させていると、ひしひしと感ぜられた次第です。公園とならず未だ私有地に立つこの59期生の聖地をお守りするには、依田家のみならず近隣の方々のご理解も不可欠です。

幸い頂上隣に立つ新しい住宅の若い持ち主にも偶然お会いしてご挨拶出来ました。

21日の参拜で、陸士校歌を高唱した後、59期同期生会旗と共に記念撮影しその後は隣の浅科温泉ほのかの湯で、全員湯治の行に入り、露天風呂まで楽しんだのですが、我々に興味を持った温泉の60代の受付から何処の会ですかと尋ねられました。これは59期の皆様が只の老人には見

られていなかった証左であります。私も90歳になって自分も同じ様に元気で活躍出来るのではないかと錯覚してしまいそんな稀有なお元気さです。

そして、お元気であるだけではありません。他の人では見られない気品があったのだと思います。

何故かという夜の飲み会でも、私のこれまでの経験にない飲み会であったと気が付いたからです。半分の方は、呑んでおられませんでしたが、まずどの方のお話にも私には興味深くそして雰囲気

が知性と品格に満ちていたからです。別所さんの元区隊長鷹尾敦少佐の本をお借りしましたが、文中統帥の要として、孫子を引用され、「将は、智、信、仁、勇、敵なり」、この順番も大切だと分かったとありました。正しく59期の方々には今もその言動に、これらの陸軍士官の綱要が体現されているのではないかと確信した次第です。

権現山の美しい櫻はまだまだ大きくなります。この櫻のように来春もまた59期生の皆様がお元気に咲いて頂きたいと切に思い、これからも我々二世達を色々とお指導頂き、陸軍士官学校五九期生の魂をしつかりと2世にお伝え頂きたいと願っております。

原始に帰る心

佐藤九州男(25航通)

遠い昔に私共人間はどう生きてきたの

か人類はどう過ごしてきたのか振り返り今をどう生きるべきか考え直すべき時期が現代なのだと敢て筆を執った。

人類が生誕して20万年、更に遡ること40億年、この地球上に初めて生命が誕生したのが我々人間の否、我等生き物の祖先であつた筈だ。私共人間の周囲には余りにも多くの問題がある。人類となつてから僅か20万年、自然災害を初め幾多の難関を克服して現代を迎えたことになるが、茲数十年の狂るおしい程のスピードで発展する科学の蔭に人間の作り出した多岐に亘る諸問題への対応に自ずから苦しみ耐えなければならぬ時代に突入してしまつた。

戦後には真空管式のラジオを作つた時代もあつたが、しばらくしてゲルマニウムを使ったトランジスタが開発され、あれよあれよと云う間にその集積回路がマイクロチップ化され、所謂ケイタイが作られた。そのケイタイをモングルの子供達までが使いこなす時代となつた。

昔なら何年もかかつて伝わつた情報はテレビを通して全地球上の事件が瞬時に日本でも映る時代になつた。映像がアツと云う間に伝わる時代に政治家はテレビを意識して態の良い発言を繰り返して次の選挙に勝つことに悪念している。介護に予算を惜気もなく投入して次の選挙に備へることに終始した結果、健康な国民の体力・氣力を低下させ他力依存に陥るの

を見ぬ振りをし、テレビのコマーシャル映像に便利さ楽しさを歌い文句にして視聴率を競い、安易な生活を薦め、結果として無氣力な若年寄りを急造させている。

弱肉強食の経済社会では当然の結果と反省も忘れ、次々と新手を開発し貪欲な利益追求に悪念している。米国では0・1%の富裕層と99・9%の庶民層の富が等しいとか、こんな貧富の格差が許されて良いとは思えない。

国を喰ひ物にする政權と反政府勢力・ISの三つ巴の戦闘はシリア難民の形で悲劇を繰り返している。今こそ世界中に拡散された歪を如何に修正すべきか又人間の幸せとは何だつたのかを考え直す時が来た。全地球規模の良識を纏めて対策を立てるべきではないのか。この多岐に互る歪みを放置して成り行きに委ねるのか、我々には千年後の子孫が安心して暮らせる状況を構築して次世代に引き継ぐ義務があるのではなからうか？

まだまだ問題は山積みしている。例のスリーマイル島事故で発生したデブリの処理には、あの広大な米国ですら困り抜いている。アイダホ州放射能研究所まで運んだものの住民の反対で、それ以上の移動が出来ず放置の儘年月を過ごしている。狭い日本では汚染度の低い放射性廃棄物すら受け入れ先が見付からない。日本のみならず全世界は余りにも多くの難

問を抱え込んでしまつた。

現代人は原始に帰つて生き方を根本から考え直すべき時を迎えているのではないか？。人間の幸とは何だつたのか「足るを知る心」で生きた昔の生活を見習うべきではないのか。恐竜の栄えた12000万年前に比べ人類はまだ20万年しか過ぎしていない。人類に与えられた一握りの歴史を大切に過すべきではないのか？

国家間の格差・民族間の紛争・麻薬問題・飢餓難民・飽食肥満等々各種の歪が関わり合い、複雑深刻にしている。このまま弱肉強食の競争社会を続けて良いのか考え直す時期を迎えたと思えてならない。